

## [課題演習概要]

# 生徒が主体的に動きを高める保健体育科学習の研究 —動きを明確にする話し合い活動を通して—

深 見 明 香 利

Akari FUKAMI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース  
教職教育高度実践力プログラム

(2023 年 1 月 10 日受理)

キーワード：保健体育科学習，動きを高める，話し合い活動

## 1 研究の目的

### (1)研究の背景

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説保健体育編には、保健体育科の目標に「運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」と示されている。この目標を達成するためには、保健体育科学習の展開段階において、生徒が動きを高めるための課題解決や工夫した練習方法を他者と話し合う場を設定する必要がある。そして、合理的な動きに近づくために、課題とする動きを明確にしながら、主体的に動きを高めることができる授業づくりを行う必要があると考える。

さらに、梶原ら（2006）によると、「教え合い・学び合い」の場を授業の中に設定すると、一人一人の生徒が自ら学ぶ意欲を高め、技術向上を図るために、運動種目における様々な視点での課題設定や解決、練習を繰り返し行いながら技術を向上することのできる授業を展開していく必要があると述べている。

このことから、学習の展開段階に生徒が主体的に動きを高めるために、他者と動きを明確にした話し合い活動を行える場を授業の中で設定し、課題解決や工夫した練習方法を考えさせ、チームや個人の技能・技術の向上を実感させることのできる授業づくりを行う必要がある。

### (2)研究の目的

本研究では、保健体育科学習において、生徒が技能や技術に関する自他の運動課題を主体的に解

決することを目的とする。そのために、動きを明確にした話し合い活動を通して、生徒が他者と運動課題を解決しながら合理的な動きへ近づき、常に学習の中で生徒が主体的に動きを高めることができるようにする。

## 2 研究の計画

表 1 研究の計画

M 1	技術向上に関する先行研究や体育授業での話し合い、教え合いを取り入れた授業の文献研究。
M 2	他者と動きの課題を発見し、話し合い活動を通して課題解決を行い、生徒が主体的に動きを高めるための授業展開の考案と実施。

表 1 の通り、研究を計画した。この研究計画を A 町立 B 中学校第 2 学年の 1 学級 35 名を対象に 4 単位時間を通して行う。取り扱う単元は「球技・バレーボール」である。課題となる動きを明確にするために、自他の動きが見られる ICT 機器の活用と話し合いで活用するチームノートの内容について検討・作成し、授業展開を工夫する。また、振り返り場面での評価方法についても、チーム評価と個人評価の内容について検討し、作成を行う。

## 3 研究の内容

### (1)主題の意味について

「生徒が主体的に動きを高める」とは、様々な運動種目において、自己の記録を伸ばしたり、技能を向上させたりするための運動課題の解決やチー

ムの課題の解決のために、どのような動きが良いかを考えること。そして、その動きを身につけるために、練習方法などを工夫して主体的に技能を向上させることである。

## (2) 副主題の意味について

「動きを明確にする」とは、合理的な動きをめざすために、動きのどの部分がどのようにならなければならないのかを具体的に細かく分析し、明らかにすることである。

## (3) 授業の実際

①授業実践の活動内容と手立てについては下記の表2の通りである。

表2 授業実践の活動内容

	活動内容	手立て
1 時間目	チームの試合中の動きを撮影し、試合後チーム課題が何かを話し合う	タブレットを活用し、チームの動きを視覚的に確認させる
2 時間目	運動課題を解決するための練習方法をチームで考え、練習し、試しの試合を行う	課題に適した練習方法の例を全チームに提示し、工夫した練習方法を考えさせる
3 時間目	試しの試合を振り返り、もう一度練習方法を考え、練習し、試合を行う	前時の練習の効果があったかどうかをチームで振り返らせ、新たな課題やその練習方法について考えさせるプリントを活用する
4 時間目	1 時間目と 3 時間目の試合中のチームの動きの比較を行い動きの高まりについて評価する	・タブレットを活用し、練習前後の試合中の動きを視覚的に確認させる ・評価の際の動きのレベルを提示し、チームのレベルがどこまで上がったかを決めさせる

## ②「動きを明確にした話し合い活動」について

1 時間目と 3 時間目の話し合い活動ではチームの動きを視覚的に確認できるタブレットを活用し、チーム全員で動きの課題を明らかにすることができるようにするために、チームノートに動きを明確にするための生徒に見てほしいポイントや視点を提示し、チームで協働して課題を見つけやすい環境を整えた。その結果、チームノートの動きを見る視点や試合動画を視聴しながら思考し、チーム全体が試合中に動けていない(パスを取れない、パスが続いていない) こと、また、その原因としてアンダーハンドパスやオーバーハンドパスの動き(パスを出す際に膝や全身を使えていない、手首の近くでボールを取れていない等)ができていないなど、細かく動きについて分析し、全員で課題を確認し、共有し合いながら、話し合いを行う姿を見ることができた。

## ③「工夫した練習」について

チームの運動課題にあった練習方法を考えさせる場面では、練習を自分たちで考え、実践することが今回初めてだったため、練習方法を考えやすいように、課題に沿った練習方法の例を複数生徒たちに提示し、工夫した練習方法を考えやすい環境を整えた。その結果、全チームが提示した練習

方法とは異なるオリジナルの練習方法を考案し、練習に取り組む姿が見られた。また、練習をしていく中で、合理的な動きに近づくために、①動きの確認②練習③チームの仲間から評価・アドバイス④動きの改善という流れで、繰り返し練習を行い、合理的な動きに近づく姿が見られた。練習の中で、相互にアドバイスをし合う姿が多く見られ、その内容としても、身体の向きや手足の角度、パスする際の力加減など、動きをより細かく指摘することができるようになっていた。そして、練習の後半では、練習をしていく中で、新たな動きの課題を見つけ、課題にあった練習に取り組む姿を見ることができた。

## ④評価・動きの高まりについて

試合中の動きの変化についての振り返りの時間では、試合中に撮影した動画とチームの動きのレベルについてレベル1からレベル5までを提示したチームノートを活用し、チームの動き視覚的に確認させながら、課題解決についてと動きの高まりについて評価させた。個人技能の評価についても、レベル1からレベル5で評価をさせた。その結果、全チームが課題を解決することができ、チームとしての動きを高めることができたことと記述をしていた。また、個人技能の評価においては、8割の生徒が個人技能の向上を実感しており、練習と試合に積極的に取り組むことができたことと評価をしている。チームでの課題を解決するために、個人技能の向上と動きを高めることができたことにより、チーム課題を解決することができ、よりチームの動きが高まったのではないかと考える。

## 4 成果(○)と課題(●)

○課題に対する練習をチームで繰り返し相互に確認し合いながら行ったことで、次々と課題を見つけ、練習し、改善しながら、合理的な動きに近づくことができ、動きを高めることができた。

●話し合いで動きを明確にすることができなかったチームに、指導する際の声かけの工夫や話し合いをする視点の提示の仕方を工夫する。

## 主な引用・参考文献

- 文部科学省 2017 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」  
梶原久巳 他 2006 「自らが学ぶ力を育てる授業実践」 -陸上競技(短距離走・リレー)の授業から-